

# 「七夕豪雨」の記憶

## 一字一筆

静岡の今

7月7日は「七夕」。年に一度、戻って来る祖先の霊に着せる衣類を機織りして柵に置く習慣に中国の織女・牽牛伝説が結び付き、二つの星が天の川を隔てて逢瀬を許される日とされ

る。由来をよそに、やがて絢爛豪華な笹飾りが各地の商店街の町おこしに使われ、幼稚園や家庭の軒先では家族のささやかな幸せを願う短冊が揺れる日となった。「清水七夕まつり」(静岡市清水区、4〜7日)は、1953(昭和28)年、清水商店街連盟の呼び

かけで清水駅前銀座商店街などの約2千店が参加、全国有数の七夕祭りとして始まった。今年で67回の歴史があるが、ただ1回中止になった年がある。

74(昭和49)年7月7日、静岡市は午前9時〜8日午前9時の24時間雨量が508.3に達し、静岡地方気象台の観測史上最高記録になった。45年後の今も、この記録は破られていない。

「七夕豪雨」と命名されたこの集中豪雨で同市内を流れる安倍川や丸子川、巴川流域では各所で決壊・氾濫が発生し、死者27人、約2万6千戸の浸水被害が発生した。七夕まつりの最中だった清水区中心街も水没し、祭りは会期中で中止となった。清水区出身で小学3年生だった漫画作家さくらももこさんは、作品の中で当時の様子を「私の町が海になった」とちびまる子ちゃんに語らせている。

この年の7月7日は、参院選挙と静岡県知事選の投票日が重なり、マスコミ各社は忙殺された。当時、朝日新聞東京本社社会部記者だった筆者も丸子川沿いの実家の母から「床下浸水」の連絡を受けた。静岡に「七夕豪雨」をもたらした台風で全国の死者・不明者は1000人を超え、一人暮らしの母を思う余裕がなかった。

今年の清水七夕まつりも梅雨に見舞われた。竹飾りの「ちびまる子ちゃん」を驟雨が叩いた。

(前静岡県監査委員・富永久雄)



67回目を迎えた今年の「清水七夕まつり」＝静岡市清水区、全日写連・薩川高宏さん撮影